
自由南アフリカの声

Voice of Free South Africa

2005年6月
No.38

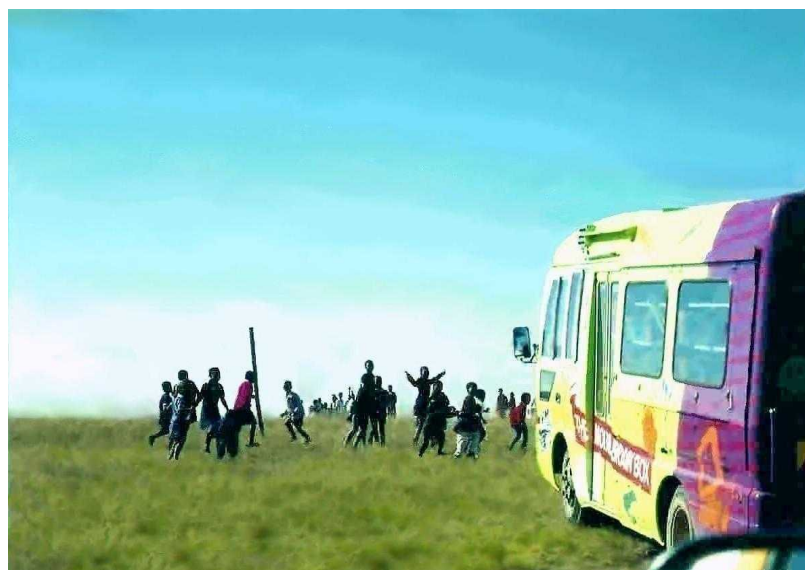
発行 / アジア・アフリカと共に歩む会

Published by Together with Africa and Asia Association (TAAA)

2005年6月の報告と予定

- 12月 移動図書館車がMEIに到着
 - 1月 TAAA活動報告会
 - 1月 野田市より移動図書館車受領
 - 2月 来日中の南ア教育大臣とTAAA代表会見 NHK報道
 - 3月 JICAプロジェクト学校訪問
 - 3月 南ア・全国図書館会議で基調演説
 - 4月 西ケープ州教育省へ
 - 5月 MEIとイナング移動図書館運行に同行
 - 7月～8月 英語の本を南アへ送付
-

目次	南ア・移動図書館2004年度報告書より・・・・・・・・・・	2
	来日中のパンドール南ア教育大臣と会見・・・・・・・・・・	3
	全国図書館情報テクノロジー大会・・・・・・・・・・	4
	野田市の車新聞記事・・・・・・・・・・	5
	2004年度JICA事業総括・・・・・・・・・・	6
	募金サイト“イーココロ”にTAAAが登録・・・・・・・・・・	7
	ダーバン滞在記・・・・・・・・・・	8
	算数セットを送る・アイデアコンテスト顛末記・・・・・・・・	9
	会計報告・・・・・・・・・・	10
	主な活動・・・・・・・・・・	11
	寄付・会費・本などを下さった方々・・・・・・・・・・	12



南ア・移動図書館 2004 年度報告書より

エルギン学習基金 / 西ケープ州教育省

開始から 2 年目のエルギン図書館車事業。貧窮の農村地域で、データベースを通じた管理システムを駆使しながら、学校のニーズや地域言語に適した本を揃えるなど奮闘しており、事業の成果は間接的に家庭にまで及んでいる。読書を通じて生徒たちは、各々の想像力や問題解決力が発達してきたばかりか、借りた本を家に持ち帰っては字が読めない両親に読み聞かせている。それに答えるかのように、生徒の親たちがプロジェクトに関わるようになった。読書会に出席したり、ボランティアとして参加したり。彼らの大部分は 1 年を通じて果実収穫シーズン以外の 7 ヶ月は失業しているというが、子供たちの識字率が向上したことを皆とても誇りに思っている。2005 年度の課題は、対象校数増、専従図書館専門コンサルタントのさらなる増員。また、移動図書館車巡回区を農場にも広げて、成人や学齢前の子どもたちの読書と学習へのニーズに応えていきたいと考えているが、これには、成人教育教材やプレスクール用教材、メディア、教育用玩具を運搬する 2 台目のバスが必要である。

ウエストコースト / ワインランド (西ケープ州)

この地域は殊更に貧しい農村地帯で、HIV / AIDS の影響も深刻だ。図書サービス事業が入るのも始めてとあって、蔵書冊数の増加状況の按配を図りながら徐々に対象校数を増やしていく慎重な計画で臨んでいる。さて、残念なことに今年、記録的な早魃に見舞われてしまった。葡萄の収穫も少なく、家畜まで殺さなければならなかったという。そんな状況下、2004 年度は計画通りに先陣 6 校でスタートした。各校での手ごたえは顕著で、貸し出し冊数を制限しなければならないほど活発。学校図書館設置を目指した教師対象の本格的な図書館訓練、コミュニティーの大人たち向け成人識字教室も始まった。目下の課題は資金集め。この地域の人々はもっぱらアフリカンス語を話す。この言語の書籍は翻訳本や高価格なものばかり。「学校用の本の買い足しに加え、新聞、雑誌、さらには教育用、読み方用のビデオも揃えたい」と意欲満々、担当者は、資金集めに奔走している。2005 年度目標は、対象校を 12 校に拡大、および資金集め。

MEI (ハウテン州)

7 年目の MEI 事業は、さらに成熟の印象。巡回学校数は、この 1 年で 6 校増え 41 校に。また、カリキュラムに直接関連のある本や現地語の本の無料見本を出版社から大量に寄付してもらい 2000 冊の新しい本が加わった。倉庫の本を整理し、書棚の並び変えも行った。単なるアルファベット順からクラス別に、だ。その結果、先生が自分のクラスのための本を選びやすくなった。課題は、相変わらず「読書を楽しむ習慣づけ」。この地域の教育の仕方は、伝統的に教科書の機械的暗記に限られて来た。読書を楽しむ習慣がないため、先生たちは自分の科目に直接関係

のない本を借りようとしな。この問題の解決には長い年月がかかるだろう。現在使用している図書館車の老朽化も気懸かりだ。

ハウテン州教育省

1999 年開始以来安定した運営が続いているハウテン州では、2004 年度も、複数の中学校が巡回校に追加された、バスにコピー機を搭載して、教師が雑誌の記事をコピーできるようにした、貸出率は増加して 78 % となった、アイルランドで開催された国際会議でハウテンにおける移動図書館について発表した、と順調に成果を上げている。さらに 2005 年度は他地区へもサービスを拡大することに加え、ボランティアの助けを得て 4 年生の生徒に読み聞かせプログラムを始める計画。

(書式に沿って各所から数ページの報告が届いたものを、要約しました。書式準備は久我祐子、翻訳は大井幸子、要約は安部弥生が行ないました。)

来日中のパンドール南ア教育大臣と会見

TAAA は 3 年間に 30 台の移動図書館車を南ア各地に送付することを約束する。南アでは蓮沼忠(ヨハネスブルグ在住)が南アの教育省や全国の州の図書教育最高責任者たちと、昨年からのサーチ、協議、アピール、答申書提出等に奔走した結果、南ア教育大臣をはじめとする教育界が TAAA の移動図書館活動の功績を大いに認め、今後の南アの教育発展における移動図書館車の重要性に注目、期待している。新たな州も受け入れの準備に入っている。

TAAA は全国の移動図書館所有の図書館を調べ、80% にアンケートを送付。使用廃止の近い図書館には、寄贈をお願いしている。今年、5~6 台、来年は 10 台の送付を予定している。

東京における南ア教育大臣との会見や野田市図書館寄贈が 2 月 14 日、NHK “おはよう日本” で報道された。



左より TAAA 野田, 蓮沼, パンドール大臣, ルビシ氏



NHK おはよう日本より 次に送る移動図書館を紹介する伊奈レポーター

全国図書館情報テクノロジー大会

南ア・ブルームフォンテンにて 2005.3.24

蓮沼 忠

Elits(Educational Library, Information, and Technology Service)と e-Learning に関する全国会議が Free State 州の(来年は Gauteng の予定)ホストのもと 州都 Bloemfontein で開催され全国から 400 人以上の先生の参加があった。大講堂での主要テーマの発表と多くの分科会が開かれ 教育省本省による方針発表から具体的ケーススタディーまで盛り沢山のプログラムが組まれ活発な質疑討論が行われた。同時に教科書、教育資材の業者の展示会もあった。

1. 図書館車

Gauteng 州の図書館車を搬送し入口正面に展示し多くの人を訪れた。教育省への答申書をもとに図書館車のプレゼン(日本人で元ビジネスマンの経歴が幸いしてか物珍しさもあり)は基調演説の一つに選ばれ好評であった。Busi(答申書メンバーの一人で Gauteng 州 Elits 部長)の教育大臣との図書館の将来に関する会議の報告。さらに、Maseko(同じくメンバーで本省”読書普及課長”)の図書館車を正式に認知した省方針の発表などが主要テーマに組み込まれた。分科会では西ケープの Rose/Sara チーム(写真)による図書館運行と成果の発表がされた。

また Maseko のプレゼンで NHK の“おはよう日本”の英語のテロップ入りを大型スクリーンに流した。Pandor 大臣の図書館車に対する発言を聞いた参加者は、図書館車が国として認知された感を深くした。

2. Free State 州

初日、多忙の中 Free State 教育長官が駆けつけスピーチしたが、小生も挨拶、図書館車への配慮をお願いした。Free State 州は行政機構もしっかりしており次に図書館車を導入させたい第二グループの最右翼である(他に北

西州と Mpumalanga 州)。驚いたことには翌朝開場前に長官自身が図書館車を見学に来て熱心に見たそうである。その後、受け入れの条件を確認する会議を開きたいので再訪問してほしいとの要請を受けた。長官に挨拶した際、初年度は1台でパイロット運行を提案。今年の5台については、KZN が既に社屋を4箇所つくり到着を心待ちにしていることを考えると、Free State へ1台送付が決まれば今年は”完売”となる。

3. 会議主要議題

南ア政府は教育の数量的拡大を第一目標としそれに財源を優先割り当てたため学校図書館がワリを喰い宙ぶらりんになっている。出席者が図書館系でもあるため不満が出た。図書館車がそのリリース役を担うことになるので、かなり期待されているのを痛感した。

付記

Free State との導入準備は順調に推移しており責任者(Stals 学校教区長)も決まり、最初の導入準備会議が5月6日 Bloemfontein で開催された。6月中には代表団が Gauteng 州の Benoni 及び KZN 州の図書館車運行実態を見学するため訪問を予定している。



西ケープ州エルギンにて、右より代表ウォーカー、サラ、ヴェロニカ、野田、蓮沼 2004.8

使命終え、再び再利用

野田市の移動図書館「そよ風号」



東部小児童の見送りを受ける「そよ風号」

アジア・アフリカと共に歩む会 N G O が橋渡し

利用者の減少やディーゼル車の排ガス規制により、昨年末に引退した野田市の移動図書館「そよ風号」がN G O (非政府組織)を通じて南アフリカ共和国へ送られることになり、このほど同市立東部小学校で引渡し式が行われた。

「そよ風号」は、九一年のデビュー以来、十三年間にわたり市内二十六カ所のステーションを三千冊の図書を積んで巡回。この間の走行距離は五万一千キロにのぼり、二十万冊近くの貸し出しを行って来た。

その後、市内の図書館施設の整備が進んだことやディーゼル車の排ガス規制強化により、今年一月以降は使用できなくなることから昨年末でその使命を終え廃車されることになった。

しかし、「そよ風号」の廃車を知ったさいたま市のN G O「アジア・アフリカと共に歩む会」(野田千香子代表)から、南アフリカ共和国で移動図書館として再利用したいという申し入れがあり、同市ではこの申し入れを受けた。

同会はこれまでに日野

市、三郷市などから十五台の引退した移動図書館を譲り受け、同国へ送っている。

「そよ風号」も廃車手続き後に再整備を受け、今秋には同国内を巡回することになっている。

一方、「そよ風号」に積載していた児童書約二千冊は、東部、福田第一、福田第二、関宿の各小学校とひのでの森保育園へ引き渡されることになっている。

2004 年度 JICA 事業総括 (2004 年 4 月～2005 年 3 月)

対象国名・事業名： 南アフリカ共和国・クワズールーナタール州ンドウェドウェ地域の
学校における HIV / AIDS ピア教育プロジェクト

平林 薫

ンドウェドゥエ地域の対象校 (15 校) に HIV / AIDS に関するピア教育体制を確立する。

1) 学校巡回指導員が、各校で選出された教師を対象に研修を行なった。

(2004 年 1 月 26 日から 2 月 5 日までと、2005 年 1 月 22 日および 29 日に開催)

2) 教師が学校巡回指導員の協力を得て、選出したピア教師に対する研修を行なった。

(15 校を 2 つのグループに分け、第一回研修は 4 月 21～23 日と 28～30 日に開催。第 2 回研修は 7 月 30 日、8 月 2 日、および 8 月 5～6 日に開催)

3) 学校巡回指導員が、ピア教師および対象学年の生徒達に HIV / AIDS に関する知識を問うテストを行なった。(5 月中旬から 6 月初めに実施)

教師研修では、教師達の知識と意識を向上させ、プロジェクトへの積極的な参加を促した。ピア教師達は、研修において真剣に授業に取り組み、リーダーとして積極的な姿勢を見せていた。その後、各校でライフスキルの授業時間内にピア教育を導入、歌や劇などを通して、HIV / AIDS の問題や予防について話し合っている。

対象校の生徒達がピア教育を通して HIV / AIDS の知識を得て、感染の予防、拡大を防ぐ意思決定、行動ができるようになる。

学校巡回指導員が対象校を訪問し、ピア教育体制および保健クラブ設立と運営のための支援、指導をする。(5 月中旬から 6 月初め、8 月上旬から下旬、10 月上旬から下旬、

および 2 月下旬から 3 月上旬にかけて学校訪問)

学校巡回指導員は、各校の校長や教師達と十分に話し合いながら、HIV / AIDS ピア教育体制を確立した。生徒達は HIV/AIDS の問題に対してオープンに話し合う姿勢を見せている。現在のところ 3 校ですでに保健クラブを設立し、広報活動 (ポスター作成など) や、HIV / AIDS サポートグループの結成、情報センターの設置などの活動を行なっている。校長および教師達を積極的に参加させるよう支援、指導することが、学校巡回指導員およびプロジェクトマネージャーの一番の役目だと感じた。そのためには、できるだけ頻りに学校訪問をし、彼らの声に耳を傾ける必要がある。



第 1 回ピア教師研修 2004.4.21～23

その他、特記すべき活動実績及び成果

・5 月に参加校のうち 2 校が、自主的にコミュニティも含めたエイズデーイベントを開催。

地方のコミュニティでは、HIV / AIDS

に関する誤った情報や知識が浸透しており、地域の貧困も問題を一層深刻なものにしている。生徒達に正しい情報と知識を身につけさせるのと同時に、大人たちへの教育も必要である。

・8月2日および1月9日に、埼玉県労働会館においてプロジェクトマネージャーの帰国報告会を開催。TAAA会報での広報も含め、日本側でプロジェクトへの理解と協力を要請。また、8月31日にTAAA野田代表が、学校巡回指導員およびプロジェクトマネージャーと共に参加校を訪問、

ピア教育の現場を視察。

エイズデーイベントの際に、生徒達から“こんなに遠くの国のいなかの学校の私たちの

ことをケアしてくださって、日本の皆さんありがとうございます”という言葉をもたらした。私たちの活動の“心”が伝わっている思いがして、とてもうれしかった。



エイズデーイベント(5月21日、GIJIMANI 高校)

募金サイト“イーココロ！”にTAAAが登録

国内外を問わず、昨今の地震・津波災害などに寄付金を募る広告やテレビ放送を多く目にするようになりました。このような中、どうやったら支援したい事、関心のある問題について募金ができるのか探すのも難しいかと思えます。

TAAA が登録された募金サイト“イーココロ！”では、現在(2005年5月)31団体が登録されており、インターネット上でそれらの団体へ募金することが可能となっています。

募金の仕組みは、消費者が支援したいNGOを指定し、オンラインショッピング等によるサービスを利用することによって、その売上の一部を提携企業がNGOへ寄付する形をとっています。

インターネットに接続できればどなたでも国際協力活動に参加できるサイトです。

参加方法は下記URLからアクセスできます。

<http://www.ekokoro.jp/> (イーココロ! トップページ)

トップページから「はじめての方へ」をクリックして**無料会員登録**をしましょう。

(会員登録で、支援したいNGOを選択できます。ぜひ、TAAAを指定して下さい)

お買い物や資料請求によりポイントを貯めて指定NGOへ寄付されます!

(関根 章博)

初めての南ア

ダーバン滞在記

武藤 豊

皆様、こんにちは。

私は、5月から約2ヶ月間学校でのコンピュータトレーニングの現状視察をメインの目的として南アフリカを訪問しています。現在、ダーバンで公私とも充実した日々を送っています。

現在、ダーバンを拠点として、移動図書館車プロジェクトを行っているクワズールーナタール州教育省のELITSの方々といナンダ地区に同行して、学校ではどのように受け入れられているのか、一緒にサポートしながら活動しています。

イナンダ地区は港町ダーバンの近くでありながら、山の中。同じイナンダ地区でも、山の麓の居住区内にある大きな学校と山の頂上にある小さな学校では、学校側の受け入れ態勢は若干異なります。大きな学校では当然生徒が多いため、先生方が本の貸し借りをし、子供たちは教室で待機。休み時間になると車のデザインに興味津々で集まってくる、という状況。一方の小さな学校は1学年20人弱なため、直接子供達が本を選んで貸し借りをし、先生方はこの本が彼らに適しているのかどうかをアドバイスしている、という状況。いずれにしても、移動図書館車は、先生方をはじめ子供達にも大好評。移動図書館車システムは、南アフリカの教育事情にとてもうまく機能しているシステムだと改めて痛感しました。

目を輝かせながら本を選び読んでいる姿は、この場に立ち会えることが出来てうれしいという感謝の気持ちと、将来大きな夢を持って成長してほしいという願望で一杯です。しばらくの間、ELITSの方達やELETのピアエイズ教育プロジェクト事業にも同様に同行して、色々な方々とお会いし、教育を通じて、南アフリカの現状を見て廻りたいと思います。

南アフリカは気候も申し分なく（特にダーバン）、食べ物・飲み物もとても美味しい、常に自己管理に気を配りさえすれば、まさにパラダイスです。

皆様も南アフリカ、いかがですか。しばらくは、ホームシックにかかるということはまず考えられない今日この頃です。



南ア KZN州イナンダにて

浦和南小学校より

算数セットを送る

安部弥生

南アの小学校では、算数基礎をふくめ理科の成果が思うように上がっていないのが先生たちの悩みの種です。KZN州ダーバンから20km北西にあるイナンダ地区の先生たちから、「何か良い教材はないかしら」と相談されたことがきっかけで、南浦和小学校の皆さんの算数セットが、遙か海を越えて南アへと送られていくことになりました。

移動図書館プロジェクトは2004年8月にイナンダ地区においてKZN州教



算数セットの見本を見る教師「使いたい！」

育省で始まり、現在1台の図書館車が17校を巡回しています。南浦和小学校から頂いた算数セットも、この図書館車に載せられて地区内の各校に貸し出されます。

アイコン（アイデアコンテスト）顛末記

南ア在住の蓮沼さんとの連携により数年で30台余りの図書館車を南アに寄贈する計画に着手している当会ではもっとも大きな壁「資金問題」にぶち当たり呻吟しています。

この問題解決の一助にと蓮沼さんからアイデアコンテストの提案がありました。期間は3ヶ月。賞品は南ア特産のワイン数銘柄（蓮沼さん提供）。単に資金調達目的のみならず活動そのものを広く世間に知らしめてベースを広げるのも可、と間口を広げたところで低調だった応募も一気に花開き《ネット上のクリック募金》やら《ポスター、シール製作》やら果ては《ルイボステイハイを酒屋に売り込む》と提案者の嗜好とかなり混同したのやら百花繚乱。

結果、先ず委員会で受賞作を4点に絞込み一時帰国した蓮沼さんを中心に下記の4点を選定いたしました。

- | | | |
|-----|-------------------------|------|
| 1位 | ポスター作戦（広く世間に活動を広める） | 安部さん |
| 2位 | NET上でのFUND作戦 | 近藤さん |
| 3位 | 最多安打賞（他NGO HPへのリンク貼り）等々 | 丸岡さん |
| 番外賞 | 大量のアイコンを整理した労苦に報いて | 関根さん |

これをもって後半グッと盛り上がったアイコンの終了を宣言すると共に、火付け役の蓮沼さんに御礼申し上げます。（浅見 克則）

主な活動(2005年1月20日~2005年5月20日) 下線は南アにおける活動

1/20 南ア連絡員平林ダーバンに戻る
1/22 JICA プロジェクト教師ワークショップ参加
平林薫
 1/26 JICA 説明会 安部弥生
 1/29 会費お知らせ作成 西村裕子
 1/29~2/5 会報37号編集 野田千香子
 1/31 南ア大使館にて大使と会見 蓮沼忠 野田
2/2 ELETにてミーティング 平林
 2/4 野田市興風図書館より移動図書館引取り
 北爪健一 浅見克則 蓮沼
 2/4 ミーティングとNHK取材 浅見 蓮沼 北爪
 野田
 2/7 南アパンドール教育大臣来日面会 野田 蓮沼
 2/9 2/12 NHK取材受ける
 2/10 埼玉県NPO推進室へ相談 安部 野田
2/11 ELETにてミーティング 平林
 2/14 NHK“おはよう日本”でTAAAを報道
 2/15 南ア大使館 参事官と万博打ち合せ 蓮沼
 2/19 ミーティング 浅見 蓮沼 野田
 2/20 作業と会議 野田 西村 浅見 蓮沼 安部
 金澤雅 関根章博
 2/23 (株)林田製作所へ 北爪 蓮沼
 2/25 日本財団と経団連1%クラブへ 蓮沼 野田
2/25 ELETにてミーティング 平林
 2/26 助成金申請書類作成 関根 野田
 2/27 図書館アンケート 西村 関根 浅見 野田
 2/28 国際社会貢献センターへ 蓮沼 野田
 3/2 会報37号発送作業 井出利栄
3/4 ELETにてミーティング 平林
3/7 3/9~10 JICA プロジェクト学校訪問 平林
 3/13 彩の国市民活動サポートセンター相談 野田
 安部 浅見 西村
 3/17 移動図書館一覧表作成 西村
 3/20 梱包作業と会議 西村 野田 金澤 北爪
 浅見 下谷房道 関根 近藤信幸
3/20~23 南アIT・AV教育全国会議にて、移動図書
館車について、基調演説(教育大臣も移動図書館
にコメント) 蓮沼
 4/3 会議 浅見 関根 安部 西村 野田
4/4 教育省とKZN州 移動図書館会議 蓮沼
4/8 ラジオ702の人気番組で移動図書館などの話
蓮沼
 4/9 新ホームページ公開 近藤

4/12 日本大使と会見 蓮沼
4/18~20 ケープタウンへ 西ケープ教育省と打ち
合せ エルギン移動図書館訪問 蓮沼
4/18~20 JICA プロジェクト・ピア教師ワークシ
ョップ参加 平林
 4/21 外務省経済協力局援助支援室を訪問 野田
 近藤
 4/22 県活動センターへ税務相談 安部
 4/23 駐車場提供 石塚さんを訪問 浅見 野田
 4/24 作業と会議 西村 浅見 北爪 安部 野田
 武藤豊 村泉巨竹
4/25 KZN州教育省ELITSにて会議 蓮沼 平林
4/25~26 ダーバンへ KZN教育省へ次回送付の車説
明 蓮沼
 4/26 万博南アフリカ会場パーティ 河合塾より宮
 崎さんと浅野さんが出席
 4/27 新生南ア11周年記念レセプション 近藤
5/6 JICA プロジェクト、シセベンジレ高校エイズデ
イイベント訪問 平林
5/8 武藤 南ア到着 会議 蓮沼 武藤 日名徹一
5/9 MEI 移動図書館訪問 武藤 蓮沼 日名
5/12 野田市移動図書館車証明書の翻訳証明書受理
受け渡し 蓮沼 武藤 日名
5/15 ダーバンにて会議 平林 武藤
 5/14 ファンドレイジング会議 浅見 西村 近藤
 野田
5/16 KZN州教育省ELITS イナンダ移動図書館車プロ
ジェクト訪問 平林 武藤
5/17~19 イナンダ移動図書館同行 武藤

南ア直輸入健康茶ルイボスティ

バックをヤカンまたはポットに入れて煮立て、夏場は冷やしてお召し上がりください。売上の一部は活動費としてTAAAに寄付されます。

ルイボスティ(1箱80パック)

5箱で1万円(送料無料)

4箱以下・・・1箱2000円(送料500円)

ハガキ、ファックス、e mailで、名前、住所、電話、箱数をお知らせください。(ご連絡はTAAAへ)